

# 物流 Weekly

発行人 山田  
編集人 高田

<https://weekly>

毎週木曜日発行 購読料3か月 15,000円(送料・税込み)  
昭和62年11月14日第三種郵便物認可 ©物流産業新聞社 2024

編集部 TEL 03-6304-0790  
東京本社 TEL 03-6278-8292  
大阪本社 TEL 06-6608-0501

全国13拠点をネットワーク

定期購読のお申し込み

0120-71  
24時間  
0120-71

武監督の辻彦彦氏を講師に招き、「組織におけるマネジメン」について」という題で講習を行った。一方、初の試みとして企画された異業種の施設見学では、グループにわかれてスタジアムのみならず、ラウンジなど普段は見られない場所を見学し、参加者からは好評を得た。研修後の懇親会の



田所市)の追会を報告し、会員総数は510社となった。(中野秀一)

【栃木】 県南運輸(相田社長)だが、母親の説田昌之社長、栃木市)は得に押され、22歳で実家このほど、念願だった大に戻った。型トラックを1台納車した。軽貨物車両による個人運送「赤帽」から始まった同社は、赤帽への偏見を乗り越え、今年で創業45年を迎える。同社は、相田社長の父が1979年に創業。当時小学生だった相田社長は、家業が赤帽であることを理由に同級生からいじめを受けたという。中が、日を重なることに、学校に上がってもいじめは続き、「高校に入る頃には運送屋の息子というのがコンプレックスになっていた」と話す。専門学校を卒業後は自動車メーカーに入社。エリオンに携わった。「ものづくりの仕事が本当に楽しかった」と話す

は、家業が赤帽であることとを理由に同級生からいじめを受けたという。中が、日を重なることに、学校に上がってもいじめは続き、「高校に入る頃には運送屋の息子というのがコンプレックスになっていた」と話す。専門学校を卒業後は自動車メーカーに入社。エリオンに携わった。「ものづくりの仕事が本当に楽しかった」と話す

出迎えた保育士らから笑顔で受け取った。同社は10年ほど前から従業員の子どもたちへ毎年クリスマスブーツをプレゼントしており、近隣保育園への奇贈は本社



栗屋社長

## 県南運輸 念願の大型トラック導入

# 赤帽いじめ乗り越えて



相田社長と納車した大型トラック(レイアウト:中野尚一)

するセミナーにも積極的に足を運んだ。「今後の経営を考えると、軽貨物以外に力を入れる必要があると感じた。その頃は一般貨物も手掛けていたが、父は赤帽中心で考えていたので、また自分の考えを形にすることができなかった」と明かす。2017年に社長就任で、社名がついた大型を走らせるのが夢だった」と相田社長。「今は社員が働きやすい環境を整えることにも、赤帽への偏見をもっとなくしていきたい」と意気込んでい



越野社長